

令和3年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯地域農学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

近年、我が国では、農地の集約化による経営規模の拡大や法人化などを推進している¹⁾。また、国際連合(国連)では2017年に、食料生産だけでなく、社会経済や環境、文化などの面でも重要な役割を果たしている小規模・家族農業の役割と可能性を評価し、2019年から2028年までを「家族農業の10年」と定めた²⁾。どのような背景から、これらの取り組みが進められているのか、あなたの考えを述べなさい。また、これら国内外の動きを踏まえ、今後の我が国の農林畜産業の在り方について、あなたの考えを述べなさい。(900字以上1200字以内)

¹⁾ 農林水産省「令和元年度 食料・農業・農村白書」14ページ, 165ページ, 392～393ページ
抜粋・一部改変 (https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r1/attach/pdf/zenbun-2.pdf, 2020/10/2)

²⁾ 農林水産省ホームページ 国連「家族農業の10年」(2019-2028) 抜粋・一部改変
(https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kanren_sesaku/FA0/undecade_family_farming.html, 2020/10/2)

令和3年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯地域農学科

出題の意図

近年、様々な規模の自由貿易協定の交渉や締結により、国内農家は激しい国際競争に晒されている。このような状況において、我が国では農業の競争力強化を念頭に、経済効率性を追求した経営規模の拡大を積極的に進めている。一方で、国際連合(国連)の「家族農業の10年」(2019年～2028年)に象徴されるように、小規模・家族農業を評価する国際的な動きが高まっているのも事実である。この背景には、小規模・家族農業が果たしてきた役割に対する再評価や可能性への期待がある。

経済のグローバル化が加速するなか、今後、地域の農林畜産業を担う人材として、こういった世界の動きを把握・理解し、持続可能な農林畜産業の在り方を模索することは、重要な課題であると考えられる。

亜熱帯地域農学科では、(1) 国際的な視点で地域農林畜産業の振興に貢献したい人、(2) 地域生物資源の循環システムに基づく持続的農業生産に取り組みたい人、(3) 農業と地域社会との共生の仕組みを考えたい人、をアドミッションポリシーとしており、上記の問題を通して、世界的な動きのなかでの、我が国の農林畜産業の持続性について、幅広い視野で考えることができるかを総合的に評価する。